



マッシモ劇場前で ファルコーネ判事を偲ぶ



会員 鶴巻 暁 (49期)

シチリア島は、四国の1.4倍ほどの面積がある地中海最大の島である。人口約70万人の中心都市パレルモにあるマッシモ劇場【写真】は、1897年に開館したイタリア最大かつヨーロッパ全体でも有数の規模を誇る壮麗なオペラ劇場である。その正式名称は、イタリアを統一した初代イタリア国王の名前に由来する「偉大なるヴィットーリオ・エマヌエーレ劇場 (Il Teatro Massimo Vittorio Emanuele)」である。



1990年公開の映画「ゴッドファーザー part III」を鑑賞したことがある読者も多いだろう。マフィア組織を率いる「ゴッドファーザー」である主人公マイケル・コルレオーネが後継者として期待していた息子アンソニーは、マフィアを嫌悪しオペラ歌手を目指していた。映画の終盤、アンソニーがいよいよ歌手デビューするオペラ作品が上演されるのがマッシモ劇場である。

筆者のようなミンボー弁護士*1からすると、息子が出演するオペラをマフィアのボスが鑑賞することにより大切な家族を抗争事件に巻き込んでしまうことを、あたかも主人公の悲劇のように描いているのはいただけない。同情すべきは巻き込まれた家族の側だろう。

話を現実世界に戻そう。1980年代、シチリア島出身のジョヴァンニ・ファルコーネ判事（予審判事）は、マフィアからの転向者を証人として活用することによ

り、多数のマフィア構成員を起訴に持ち込んで有罪判決を得ていた。

日本で暴力団対策法が施行された直後の1992年4月から5月にかけて、日弁連民事介入暴力対策委員会では、諸外国の組織犯罪対策法制研究の一環としてイタリア視察を行い、関係機関の協力を得てファルコーネ氏との面会を果たしたが、同氏はかねてからマフィアの逆恨みを受けており、そのわずかに約3週間後の同年5月23日、パレルモ空港から市内に向かう高速道路の路上で車両ごと爆殺されてしまったのである。

この許しがたい事件のあと、パレルモ市民はマッシモ劇場前の広場からデモ行進するなどしてファルコーネ氏を追悼し、マフィアに対する抗議の意思を示したと言われる。「ゴッドファーザー part III」のロケ地としての印象が強かったマッシモ劇場は、今では反マフィア運動にとっての象徴的な場所にもなっている。

この事件は、イタリア国内だけでなく国際的にも衝撃をもたらした。1994年7月にナポリで開催された先進国首脳会議において、国際的組織犯罪対策の必要性が初めて取り上げられ、同年11月にはナポリで組織犯罪に関する世界閣僚会議が開催された。その後、2000年11月には国際組織犯罪防止条約が国連総会で採択された。同年12月には、この条約及び関連議定書の署名会議がパレルモで開催されたことから、この条約はパレルモ条約と呼ばれ、日本も2017年にこの条約を批准している。

このたび筆者は、念願かなって、パレルモで活発に行われているNO MAFIA ツアーに参加し、反マフィア運動に取り組むガイドから熱い思いを聞くことができた。このツアーの出発地もマッシモ劇場前広場である。組織犯罪による被害者救済や被害予防に取り組む者として、国際的な組織犯罪対策の取組みが大きく前進することを願い、厳粛な気持ちで現場に立ったのである。

*1：本年度の日本弁護士連合会民事介入暴力対策委員会委員長を務めている。